UZUMASA DAIEIDORI MAP 1975⟶⟶⟶2020

1975～80年代にかけての
大映通り商店街。
当時の様子を想像しながら
歩いてみて下さい。

紺字　1975年当時からあるお店・施設
緑字　1975年当時はあったが今はないお店・施設
赤字　1975年より後にできたお店・施設
取り上げた施設　●　飲食店　　■　その他の店舗
※アルファベットは裏面のコラムに記事があります。
(鉄道の駅・駅名は2021年3月現在のものです。)

【3つの撮影所に囲まれた大映通り】

大映通りは大映・松竹・東映の3撮影所に囲まれた商店街。周辺に住む多くの俳優さんなど映画人とともに発展してきました。それぞれに特徴があり、地元の人は「賞狙いの大映、監督（重視）の松竹、俳優（重視）の東映」などと表現し、撮影所が集中する地域ならではの比較を行っていました。1970年代以降は、1971年の大映の倒産（1986年に撮影所の完全閉鎖）、1975年の東映の映画村のオープンなどもあり、時代は大きく変わりつつありました。

【1970～80年代の大映通り】

大映通りでは、深作欣二監督のヤクザの闘争を描いたシリーズ映画「仁義なき戦い」(東映)で、多くのロケが行われました。理由は、当時の大映通りが舞台となった広島の街に似ていたからだそうです。当時の地図を見ていると、80年代にかけてパチンコ屋ができて、松竹も一時期ボウリング場を開設していました。当時をよく知る住民の方からは、パチンコ屋が3店あったとの声が多く聞かれました。きらびやかなネオンを伴う遊興施設の景観が、当時広がっていたようです。緑塗円で示した場所がそれです。地図で今のどこにあたるかを、確認してみて下さい。

【新しい顔：ベーカリー・カフェ】

赤字の比較的新しいお店には、イートインもあるベーカリーやカフェがあります。休憩にちょうどいいカフェです。歩き疲れたらぜひご利用ください。

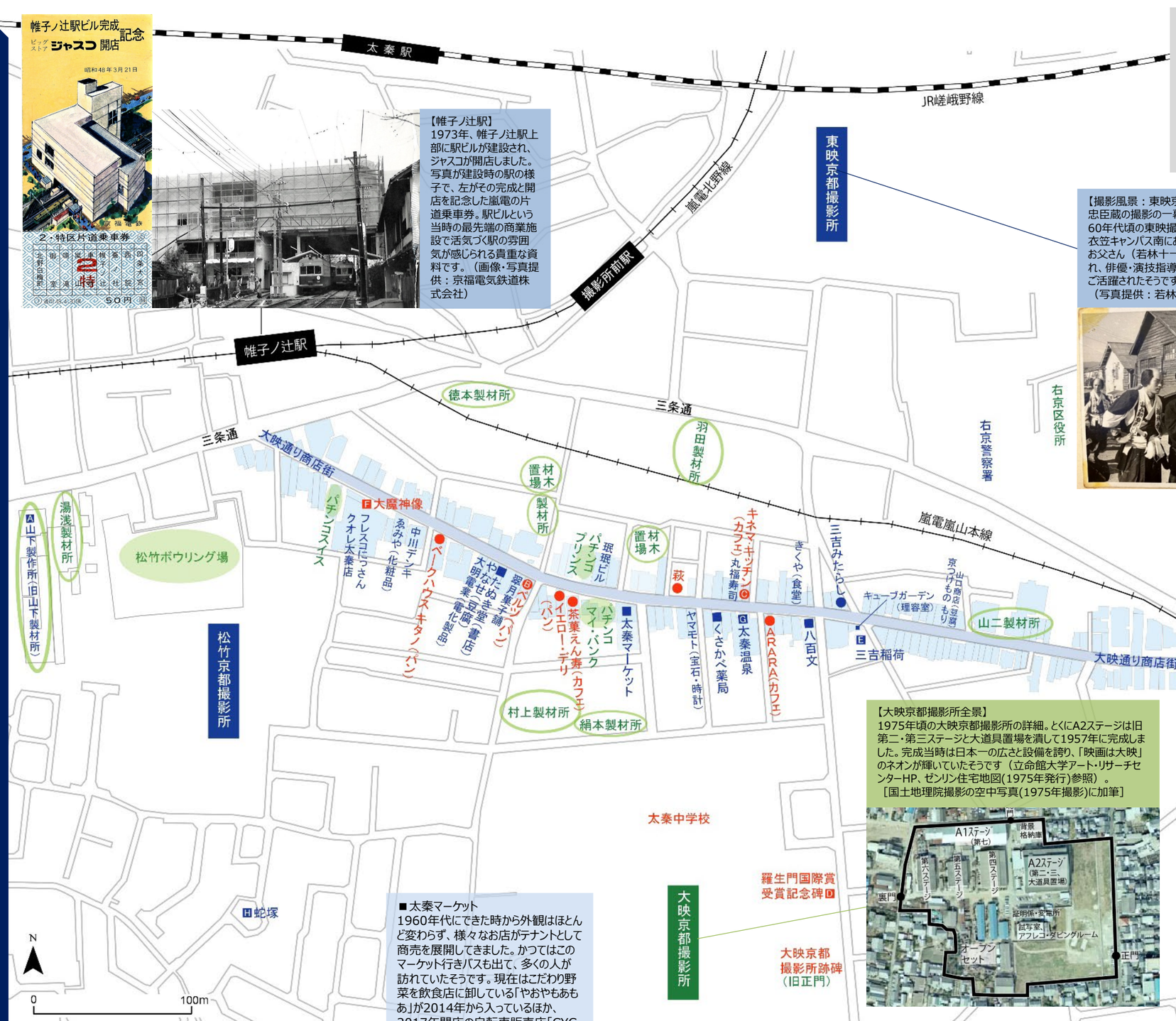
- ●ベークハウス キタノ：2001年開店のおしゃれなパン屋さん。
- ●ベルツ：裏面のコラムで紹介
- ●イエロー・デリ：オーストラリアのパン屋さんで日本初出店。
- ●茶菓えん寿：日本茶(緑茶)の専門店。
- ●萩：レンガ造りの雰囲気ある建物。昔ながらのハンバーガー。
- ●キネマ・キッチン：裏面のコラムで紹介
- ●ARARA：ランチの自家製パンが絶品。俳優さんも多く来店。

大映通り商店街には、ここに記載した以外にもたくさんのお店があります。右のQRコードにアクセスして確認してみて下さい！

【帷子ノ辻駅】
1973年、帷子ノ辻駅上部に駅ビルが建設され、ジャスコが開店しました。写真が建設時の駅の様子で、左がその完成と開店を記念した嵐電の片道乗車券。駅ビルという当時の最先端の商業施設で活気づく駅の雰囲気が感じられる貴重な資料です。（画像・写真提供：京福電気鉄道株式会社）

この地図および裏面のコラムは、2020年度立命館大学文学部開講授業「地域観光学フィールドワークⅠ」の成果として作成したもので、主に1975年発行のゼンリン住宅地図『京都市右京区北部』と現地調査、『映画の町 京都太秦さんぽ～大映通り界隈』（2009年ソトコト）などにもとづいています。
【協力】大映通り商店街振興組合、大映通りの各商店の皆様、NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場、京福電気鉄道株式会社
※多くのご協力を賜り、ありがとうございました。
【地図・記事作成】立命館大学文学部地域観光学専攻2・3回生石澤香奈、加藤芙美乃、木村双葉、中道広紀、前田裕生、森口瑛月、奥山真優、坂上創太、瀧口透、竹田知起、仲谷美貴栄、藤井奎輔、古川大地
立命館大学大学院文学研究科地理学専修：前田一馬
【監修】地域研究学域教員：山本 理佳

【撮影風景：東映京都撮影所】
忠臣蔵の撮影の一幕で、（少し古いですが）1950～60年代頃の東映撮影所内と思われます。立命館大学衣笠キャンパス南にある「ミッキー」という喫茶店オーナーのお父さん（若林十一郎氏・故人）は戦後東映に入社され、俳優・演技指導・美術、そして経営側としても様々にご活躍されたそうです。真ん中の私服の方が十一郎氏。
（写真提供：若林幹生氏）



【大映京都撮影所全景】
1975年頃の大映京都撮影所の詳細。とくにA2ステージは旧第二・第三ステージと大道具置場を潰して1957年に完成しました。完成当時は日本一の広さと設備を誇り、「映画は大映」のネオンが輝いていたそうです（立命館大学アート・リサーチセンターHP、ゼンリン住宅地図(1975年発行)参照）。
［国土地理院撮影の空中写真(1975年撮影)に加筆］

■たぬき堂書店
1950年頃の開業で、薬師丸ひろ子に夏目雅子も立寄った伝説の書店。映画製作や役作りに本は必須。よく大量の本を映画人に届けたそうです。1960年代に現「茶菓えん寿」がある場所に進出、60年代末以降2箇所で文具店と書店の2店舗経営を行ってきたとのこと。2011年頃からは現1店舗経営になりましたが、ただたぬき(の像)はどちらかにいます！1954年生まれの2代目店主は映画のことも商店街のことも何でもご存知。とても気さくな方なのでたぬき堂を訪れた際はぜひお話しして下さい。

■太秦マーケット
1960年代にできた時から外観はほとんど変わらず、様々なお店がテナントとして商売を展開してきました。かつてはこのマーケット行きバスも出て、多くの人が訪れていたそうです。現在はこだわり野菜を飲食店に卸している「やおやもあもあ」が2014年から入っているほか、2017年開店の自転車販売店「CYCLE SHOP GIFT」が入っています。「キネマ・キッチン」の前身である「うずキネマCafé」がお店を構えていたのもこのマーケット内でした。レトロと新しさが融合した空間です。

■くさかべ薬局
1930年創業の老舗薬局。今は3代目が地域の人々の健康アドバイザーとして調剤をはじめ、医薬品を提供しておられます。1997年に改装。15年ほど前に、店内で「科捜研の女」が撮影された時のこと。俳優さんにはなれている商店街の人も、沢口靖子の美しさには振り返るほどだったそう。子供の頃から続く、5～8月の5のつく日に開催される夜の出店が、変わらない風景とのこと。2019年8月の夏祭りでは健康グリーンジュースを出店でだして、好評だったそうです。作り方を尋ねてみてはいかがでしょうか。

■八百文
戦前創業の老舗の八百屋さん。ご主人は1941年生まれの2代目で、先代が日活太秦撮影所で働かれた後、創業されたそうです。仕事柄、同業者で農業地域への研修旅行に出かけていたご主人、せっかくならと旅行代理業の資格もとられたとのこと。隣で代理店も営んでおられて、全国でも珍しい組み合わせでの複合事業を行っていらっしゃいます。

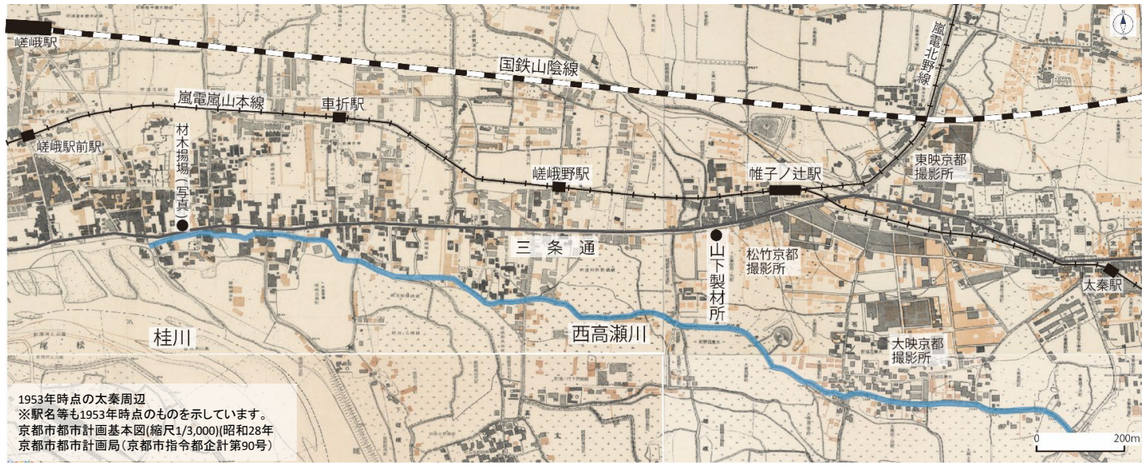
●三吉みたらし
いつ開いているかわからないから出会えたらラッキー。そんな「幻のみたらしだんご屋さん」。香ばしくあぶった塩味のだんごに甘すぎない醤油たれをたっぷりからませ、お好みできな粉をかけてくれるのが特徴。「少なくとも50年はやってる」とお答え頂いた店主を始め、創業当初か外観もみたらしだんごの味もずっと変わらないまま。是非堪能してみて下さい。
※飲食施設はありません。外にベンチあり。

太秦 ―材木商・製材所の町と東洋のハリウッド―

1960～1970年代の住宅地図をみると、太秦周辺に多くの製材所や材木置場がありました。表のマップには1975年当時の製材所・材木置場を緑円で示しています。60年代からするとかなり減ってはいるものの、まだまだ残っている様子がとらえられます。古くより京都中心部の建築需要に対し、京都北部・西部で切り出された木材が嵐山の桂川から西高瀬川を通じて運搬されていて、この太秦はその沿路にあたっていました（右図参照）。明治以降には人力から水車、蒸気、電気動力を用いた製材も導入され、また戦後には自動車による輸送も盛んとなり、運搬路に当たる西高瀬川および三条通沿いには多くの材木商とともに製材所が立地していました。右の写真は1954年の西高瀬川沿いの材木揚場の様子を示したもので（右図にも場所明記）、「西高瀬川には、あちこちに材木商の個人の浜や貯木池があり水運を上手く利用して大変繁盛して」いたようです（記念誌担当委員会企画・嵯峨製材協同組合・創立50周年記念式典実行委員会（2014）『嵯峨製材協同組合創立50周年記念誌』右写真もこの記念誌から引用）。

こうした状況の中で、この太秦には多くの映画撮影所が立地しました。戦前期、映画撮影にはセットに使用する多くの木材が必要で、総予算の2～4割を占めていました。また需要も著しく変動していたこともあり、そこに安価かつ柔軟に供給可能である太秦に、多く撮影所が立地したとされます（山田伸之（2001）「京都市域における映画制作業の地域的展開」『立命館地理学』13号）。こうして太秦には、昭和の開始とともに撮影所が次々に開設され、1926年阪東妻三郎プロダクション太秦撮影所（後の東映京都撮影所）、1927年日活太秦撮影所（後の大映京都撮影所）、1935年マキノ・トーキー撮影所（後の松竹京都撮影所）などが進出しました(立命館大学アート・リサーチセンターHP)。盛んな映画作りから、太秦は「東洋のハリウッド」と呼ばれるほどになりました。

【取材ノート】 今回、大映通り周辺で75年の地図にあった製材所の中で、唯一残っていることが確認できた事業所である山下製作所（mapA）に取材をさせて頂きました。松竹撮影所の西隣にあり、三条通沿いにある事業所です。開業が1930年頃で、映画のセットづくりなどに関係しているかを確認しましたが、基本的に取引はなく、木造住宅需要に向けての商売であったとのこと。現3代目社長(1960年生まれ)が記憶にある限りでは、京都市北部の黒田（右京区）や美山（南丹市）に山を所有し、そこから切り出した木材で商売をしていて、輸送はすべて自動車に切り替わっていました。その後、安価な輸入材におされたことに加え、国内の木材需要が減少していたため、1970年代頃より山下製材所ではいち早く木材から金属材への事業切り替えを行い、名称も「山下製作所」に変更されたとのことです。他の製材所は多くがマンション等に変わっていったとのこと。太秦の映画産業の隣では、長い歴史をもつ材木・製材産業の盛衰も展開していました。



1953年時点の太秦周辺
※駅名等も1953年時点のものを示しています。
京都市都市計画基本図(縮尺1/3,000)(昭和28年
京都市都市計画局（京都市指令都企計第90号）

映画の街 京都 と太秦・大映通り商店街

❶映画の源泉を知ろう：南禅寺水路閣

南禅寺水路閣は、琵琶湖から京都に水を引いた琵琶湖疏水の一施設。有名観光地が集まる東山地区に位置し、古代ローマ建築を参考に建てられた赤煉瓦の水道橋です。レトロな趣があり、そのフォトジェニックな佇まいから観光客の人気を集め、ドラマや映画の撮影地にも選ばれています。

実は、この水路閣は「映画の街　京都」を語る上でも欠かせない存在なのです。映画づくりには照明やカメラなど機材の動力として大量の電気が必要であり、電気なくして映画産業は成立しませんでした。京都に電気をもたらしたものこそ、琵琶湖疏水による水力発電。全国初の路面電車敷設が京都だったのも、太秦が東洋のハリウッドにまで発展したのも、この水路閣（琵琶湖疏水）にその源泉があるのです。(京都市上下水道局HP)

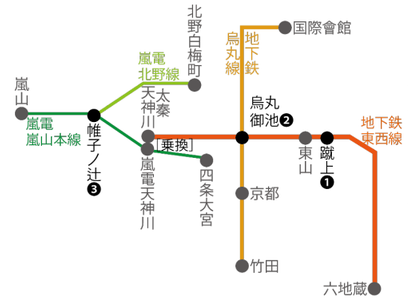
水路閣やインクラインなどの琵琶湖疏水の散歩道の景色を楽しみながら、京都の映画づくりの大黒柱としての一面にも注目してみると、あらたな発見があるかもしれません！

❷名作を知ろう：京都文化博物館

京都文化博物館は、京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合的な文化施設です。４階での多彩な特別展のほか、２、３階の総合展示室では、京都ゆかりの優品を様々な企画にあわせて紹介しています。

とくに３階フィルムシアターでは、京都府所蔵の名作映画を上映しています。ここでは、日本の古典・名作映画を中心に、解説付きの無声映画上映などのプログラムが組まれることもあり、映画の多彩な京都の魅力を感じることができます。シアター前のロビーでは、上映作品に関連する資料や解説パネル等の展示も行われているため、作品と合わせて楽しむこともできます。(京都文化博物館HP)

[最寄り駅と移動について]



それぞれの最寄り駅は❶蹴上駅、❷烏丸御池駅、❸帷子ノ辻駅です。京都市営地下鉄・嵐電の両路線1日乗り放題チケット（1000円）を利用して移動すると便利です。京都屈指の東西人気観光地である東山と嵐山の移動ルートとも重なっています。是非めぐってみて下さい。

❸映画製作の歴史を感じよう：太秦・大映通り商店街

大映通り商店街は、大映・松竹・東映の3つの撮影所に囲まれた、映画とともに発展した商店街です。太秦広隆寺駅・帷子ノ辻駅から伸びる全長約700メートルの通りには、カフェや書店など様々なお店が並んでいます。かつて時代劇製作が盛んだったころには、かつら・着物姿の役者さんたちが普通に食事もしていたとか。有名な俳優さんも日常の風景に溶け込んでいたのが、この大映通り商店街なのです。

通りには、映画の街ならではの仕掛けがあります。映画フィルムをモチーフとした塗装が施されていたり、街灯が映画のカメラの形をしていたりと「映画」を感じることができる様々な仕掛けがあり、楽しみながら歩くことができます。

ちょっとひとやすみ

大映商店街散策の途中にちょっと一息つきたいときには映画スタッフ御用達のパン屋さん、「WELZ(ベルツ)」がおすすめです。店内の奥にはカフェスペースがあり、本格的なコーヒー・紅茶と一緒に焼き立てのパンを楽しむことができます。ドイツで修業を積んだ職人が作るこだわり抜かれたパンを食べにぜひ足を運んでみてください。【mapB】

営業時間：7:00～19:00 (無休(年始除く))
TEL：075-882-1986

映画を語ろう：キネマ・キッチン

キネマ・キッチンは、大映通り商店街にあるコミュニティスペースで、2013年にオープンしました。店内には往年の映画ポスターが数多く貼られていて、雰囲気を楽しむことができるほか、映画雑誌『キネマ旬報』が1960年代発行のものからずらりと並んでいて、誰でも手に取って見ることができます。ほか映画の機材なども店内には並べられていて、それらの資料は近所の方から寄付されたものもあるそうです。

また、大型スクリーンとプロジェクターが備え付けられていて、これを利用した映画上映会などのイベントも行われます。まさに映画ずくめの空間です。映画好きな人との語らいで、人と人とのつながりを楽しんでみてはいかがでしょうか。

キネマ・キッチンの運営は、NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場が担っており、地域を活性化させるための仕掛けづくりとして商店街と協力してつくられました。食事の場と交流の場の両方の役割を果たしています。

スタッフは地域のお母さんが大活躍！「身体に良くて優しいものを作り、来てくれた人が幸せになるようなカフェでありたい」 そんな思いで日々温かく美味しいお食事を提供してくれています。営業時間：11:00~18:00（無休）TEL：871-6556　【mapC】

大映通りで 「映画の聖地」巡礼

大映通りとその周辺の映画にまつわる魅力的な場所。その幾つかを、（勝手に）「映画の聖地」認定しました。ぜひ巡礼してみて下さい！！

❶日本映画を世界に知らしめた『羅生門』の記念碑

映画監督の黒澤明のもとで多くの映画に出演した俳優として知られる三船敏郎。彼が主演を務めた『羅生門』は、第12回ヴェネツィア国際映画祭で金獅子賞(1951年)、第24回アカデミー賞で名誉賞(1952年)を獲得し、日本映画を世界に知らしめるきっかけとなりました。

かつての大映京都撮影所の跡地、現在の太秦中学校南門にはアカデミー賞名誉賞・金獅子賞受賞を記念して、オスカー像・金獅子賞を模した記念碑が建てられています。同校では校舎の壁をスクリーンにして野外上映会が行われたこともあり、日本映画の歴史と太秦の人々の映画に対する思いを感じることができる場所になっています。「大映通り」の名前はかつての大映京都撮影所に由来します。1966年4月、有志により「大映通りショップ繁栄会」が設立され1971年8月には全商店の加盟により「大映通り商店街」に改組されました。【mapD】

羅生門記念碑（オスカー像のレプリカ(左上）と金獅子賞(右下)）

❷映画の2つの神様

『三吉稲荷神社』

三吉稲荷神社は、1928年の日活太秦撮影所の建設に伴い、三吉稲荷と中里八幡を合祀してこの場所に建立したことが始まりです。その後、多くの映画俳優が訪れ、2001年には「日本映画の父」と呼ばれた牧野省三の顕彰碑が建立されました。【mapE】

三吉稲荷神社の境内の様子

『大魔神像』

高さ5メートルの大魔神像

合言葉は「いらっしゃいまじん」。フレスコにっさんクオレ太秦店の前に設置された大魔神像は、土台を合わせると高さ約6メートルと圧巻の大きさです。映画イベント用に地元の美術会社の創造社により製作されました。かつての大映京都撮影所で、1966年に制作された元祖特撮映画『大魔神３部作』のヒーローである大魔神！ 1999年以来倉庫に眠っていたこの像を、「キネマのまち太秦のシンボルに」と修復し2013年3月14日に設置されました。いまでは大映通り商店街を守る守護神のようにそびえ立っています。大魔神はクリスマスにはサンタの格好をするなど地元の方に親しまれているだけではなく、イベントの時には京都市役所や、遠く秋田にまで出張したこともあります。【mapF】

❸里見浩太朗も訪れた！！『太秦温泉』

太秦温泉は大映通り商店街にある、高さ18メートルもある大きな煙突が印象深い銭湯です。他の銭湯とは違い、店主自ら毎日カットしている「薪」を燃料とし、鯉が飼えて（実際以前は鯉池が施設内にあったそうです）飲めるほどの「綺麗な地下水」を使用しています。そのためやわらかく温かい温泉が楽しめます。またスチームサウナ、気泡風呂、ジェットバス、深風呂など様々な種類のお風呂があります。店主やお店の方も優しく心身ともに温まる銭湯です！！

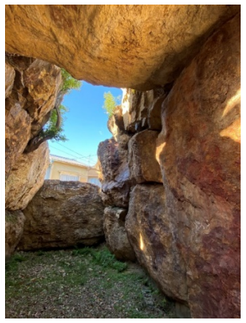
太秦温泉は、映画「仁義なき戦い」で金子信雄演じる山守義雄の朝風呂入浴シーンが撮影されていたり、様々な映画の入浴シーンに使用されてきました。中でも店主が印象に残っている撮影は、定休日の朝10時に温泉を訪れた里見浩太朗の入浴シーンの撮影で、監督による細かい撮影指示が行われ常にぬるま湯の状態で夜まで撮影は続きとても大変だったそうです。直近でも映画で銭湯を再現するために関係者が訪れたそうで、太秦温泉は今も昔も映画と深く関わっています。

営業時間：15時～24時（第1・第3水曜定休）、TEL：075- 861- 0991
【mapG】

薪を切断するカッター（上）
薪を燃やしている様子（下）

❹様々な逸話が残る『蛇塚』

大映通りから南の閑静な住宅街の中に突然現れる巨大な石。これは古墳時代末期に作られた秦氏の古墳です。狭い入り口を通って中に入ると、意外にも広い空間が広がっています。蛇が出そうな藪が生い茂っていたことから蛇塚と名付けられたのだそうで、昔近辺に盗賊が住み着いていたという逸話も残っています。この東側には1930年代に「蛇塚撮影所」とも呼ばれた嵐寛寿郎プロダクション撮影所があったとのこと（立命館大学アート・リサーチセンターHP ）。戦後この蛇塚近隣の撮影所では、かつて俳優の勝新太郎が草相撲をとっているのが見えたそうです。映画製作とも深く関連し、巨石の迫力が感じられるパワースポットでもあります。ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。【mapH】



蛇塚古墳の外観（上）石室内の様子（右）